

第2回総合戦略策定検討委員会

要点記録

日時：平成27年9月4日（金）

18時00分～20時00分

会場：庁議室

次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) 人口ビジョン（素案）の修正について
 - (2) 総合戦略の基本目標について
4. その他
 - (1) ワークショップの開催について
 - (2) アンケート調査について
 - (3) 次回会議開催日程について
5. 閉会

配布資料

- ・資料1 地方版総合戦略策定の手引き（国資料）
 - ・資料2 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」概要（国資料）
 - ・資料3 昭島市人口ビジョン（素案）
 - ・資料4 総合戦略策定における基本目標について
- 机上配布
- ・次第
 - ・第1回昭島市総合戦略検討委員会 要点記録
 - ・昭島市総合戦略策定検討委員会 委員名簿

出席者（敬称略）

- 委員長・・・ 松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）
- 副委員長・・・ 飯田哲也（ハローワーク立川〔立川公共職業安定所〕職業相談部長）
- 委員・・・ 宗川敏克（昭島市商工会 事務局長）、長島剛（多摩信用金庫 価値創造事業部部長）、勝見真之（連合多摩中央・立川市職員労働組合）、齋藤久未（J:COM多摩 多摩局地域プロデューサー）、元木絵美子（公募市民）、中尾一博（公募市民）、永澤裕（公募市民） ※欠席なし
- 事務局・・・ 企画部企画政策部長、企画部企画政策課長、企画部企画政策課担当係長、※オブザーバー：産業活性課長
- コンサルタント・・・ 斎藤、板倉（㈱サーベイリサーチセンター）

1. 開会

事務局・・・これより第2回総合戦略策定検討委員会を開催する。

○連合多摩中央地区協議会から委員の推薦があり、勝見委員が今回より参加

○勝見委員のあいさつ

○宗川委員のあいさつ（前回欠席のため）

企画部長・・・現在開催されている市議会の定例会では、10ヶ年計画である「第五次昭島市総合基本計画」が今年5年めであり、計画の前半をどう継承し、後半でどのようなまちづくりを進めていくかといった議論があった。これまでも必要とされる最低限のことに追われてきたが、ここでギアチェンジをして、後半5ヶ年ではソフト面の充実をして、一定の目途が見えてきたハードと融合させることにより、都市の価値を高めていくという方向性を市長が打ち出している。水や緑に象徴される潤いは、昭島市の特性の1つではあるが、今後は人へのやさしさ、美しさやゆとり、または文化を感じさせるまちづくりをしていきたいと議会に申し上げているところである。「総合基本計画」では、まちづくりの理念として「人間尊重」と「環境との共生」を掲げており、昭島市では不変の理論として捉えている。更にまちづくりの視点を5つ掲げており、最後の5番めは第五次の計画から追加されたもので、『『あきしまらしさ』を育むまちづくり』としている。「あきしまらしさ」とは、「個性と魅力にあふれ品格のある、質の高いまちや地域」であり、こうしたまちを作ろうと掲げているものである。その「あきしまらしさ」のまちづくりを、広く内外へ情報発信してPRしていくことも大きな取組みとして掲げている。現在、委員の方々には総合基本計画期間の5ヶ年と同時期になる昭島版の「総合戦略」を審議いただいているが、ぜひこうしたことを念頭に置かれた上で、活発な議論をお願いしたい。市でも今後皆さんの議論を踏まえ、原案を作成し、広く市民の方に意見聞き、議会にも相談していこうと考えている。ぜひ引き続きよろしくお願いしたい。

○事務局より配布資料の確認

2. 委員長あいさつ

委員長・・・本日の議論は重要なものになると思われる。前回も「あきしまらしさ」とは何かということを中心に議論し、その「あきしまらしさ」を戦略や計画に反映していきたいということが大きな流れとしてあった。今回、それを踏まえて「人口ビジョン」の素案の修正をしていただいた。これとあわせて「総合戦略」の基本目標を事務局から説明していただく。この2つの議論をして、「総合戦略」の基本目標については、大筋で合意をつけたい。我々としてもさまざまな意見を出すことで、また事務局に手を加えていただくことになるだろう。それによって次の会議では、具体的施策の検討に入っていくことになろうかと思われるので、ぜひ協力をお願いしたい。

3. 議題

(1) 人口ビジョン（素案）の修正について

○事務局より資料3「昭島市人口ビジョン（素案）」の説明

委員長・・・修正としては、構成の変更と前回より記述を増やして具体化した部分といろいろあるわけだが、再度振り返ってみると、特に42ページからの「5. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察」では、人口減少がまちにどのような影響を与えるのかということが(1)から(6)として整理されている。ここは今回の戦略として対処が必要な部分なので、積極的に意見をいただきたい。それと48ページからの「人口の将来展望」では、人口を維持・増加していくための方針が打ち出されており、その後に具体的な数字としての見通しが掲載されている。こうした流れを踏まえた上で、意見や感想をいただきたい。

中尾委員・・・昭島市は都心から1時間、奥多摩まで1時間という話があったが、電車での所要時間を改めて調べると、東京駅－昭島駅間が42.5kmで54分かかる。例えば三ノ宮（三宮）駅－京都駅間は73kmあるが50分で着くことを考えると、JR中央線は特別快速であっても遅い。都心に集中を招くような電車の高速化が良いかどうかということもあるが、もし東京駅－昭島駅間が30分台であれば、昭島市の位置付けも俄然違ってくるだろう。市でJRに働きかけることはできないかと考えた。それと全体的な話であるが、歴史と近代技術が融合する昭島市という点からのストーリーが考えられると、そこにアピールできるものがあるように思えた。

委員長・・・48ページ「目指すべき将来の方向性」では、方向性を考えること以外に、全体の、計画や戦略のキャッチフレーズがあると良いかもしれない。

宗川委員・・・立川基地跡地は、あまり重きを置かない形での表記という説明があったかと思うが、まず人口増予定が4,000人から3,200人になったのは、計画に変更があったということか。

事務局・・・重きを置かないということではなく、立川基地跡地の記載が具体的過ぎて、その開発ありきで昭島市の将来人口に臨んでいると読み取れるため、修正をしたいということである。今後、昭島市東の玄関口を開発していくのだが、西に拝島駅もあるので全体のバランスを考慮して記述していきたい。

また、4,000人から3,200人に修正したのは、民間利用部分では確定的なことがないのだが、民間利用地の住居部分の見込める面積から見て、およそ1戸あたりの面積を割り出した結果3,200人であったため修正したものである。

宗川委員・・・もう1点、48ページの②「立川市の大型店舗誘致等も視野に入れ、広域的な人の流れをつくる取り組みも必要」という表記は必要か。

事務局・・・こちらややボリュームをつけ過ぎたのだが、昭島市単体で人を呼び込もうとしても西の地域へはなかなか来てもらえない。但し広域的に見ると、東の玄関口として昭和記念公園を挟んで昭島市側での開発もあり、立川市側でも今後大規模店舗の誘致・開発がされていく。そこで立川市に訪れたその足で昭和記念公園を通じて、より西側に人の流れをつくりたいという思いから記述したものであるが、一極集中的な記述となっているため、変更していきたい。

宗川委員・・・それと49ページ「高齢化など人口構造の変化を捉え、時代に合ったまちづくりを目

指す」では医療・介護が前面に出過ぎている。それも当然必要であるが、いつまでも健康で、その場所で元気に過ごせる環境で必要なものという面では、例えば、歩ける範囲で生活に必要なものが十分揃うということも重要な要素になると思う。

委員長・・・前回、昭島市の戦略は市単独で考えるよりも、広域的に見て、立川市で予定されている大型店舗の誘致・開発を戦略的にどう活用していくかを考えた方が良いという話があった。それを受けて記述いただいたものだと思うのだが、48ページ②の「立川市の大型店舗誘致等も視野に入れ」という書きぶりだと、どういう意味合いで視野に入れているのかがわかりづらいかもしれない。そこはもう少しぼかすか、逆に明確に書くかどうかにした方が良いだろう。

今のように、文言的に気になる点があればぜひ意見をいただきたい。今の議論は、おそらく次の議題の基本目標へとつながってくる。

斎藤委員・・・「人口の将来展望」にはどの程度のことまで盛り込むことを考えているか。

事務局・・・資料4の2ページ「目指すべき将来の方向性」にも同じ記載があることから、「人口ビジョン」では記述を抑え、「総合戦略」の方で具体的に必要となる項目や視点を記述する方が良いという意見もあるかと思われる。但し、「あきしまらしさ」という点では、水と緑の豊かな自然環境、住環境に恵まれていること、都会と田舎の中間といった住みやすい立地条件にあることは前面に出していきたい。また、今後、昭島市の歴史・伝統が高まっていくようなソフト事業の展開や、人を呼び込むという点で昭島市北側の民間商業施設等も人を呼び込む力になっているので、民間と一体となったまちづくりが必要といった視点で記述していきたい。

委員長・・・個人的な考えであるが、これは「人口ビジョン」で、人口の変化を受けて持つべき方向性が記載されるセクションであるから、具体的な内容は「総合戦略」に書き込んだ方が整理をつけやすいだろう。あくまでも人口をどう維持・増加させるかといったことが記述の中心になるので、そういう意味では立川基地跡地が9.8haという内容は具体的過ぎて、逆に誤解を生むというのが事務局側の見解かと思われる。それでは、長島委員から資料が提出されているので、説明をお願いしたい。

長島委員・・・多摩信用金庫でも「あきしまらしさ」の議論をしており、どこに特徴があるのかと見たのが、お手元の資料である。

まず、9ページ「産業の特徴」の図表では、昭島市の最大の特徴としては製造業が大きな割合を占めていることがわかる。製造業ではその他、日野市と羽村市でも多く、他市と比較して別格の工業都市であることに特徴があると改めて確認していただきたい。

10ページ「製造業の特徴」の図表は、昭島市の製造業の事業所数、従業員数、出荷額等であり、例えば従業者数では意外と食料品製造業が多いが、労働集約型なのか、あるいは電気機械器具製造業や電子部品・デバイス・電子回路製造業では従業員がいるのかといったことが見えてくるので、そこも参考にしていきたい。続いて11ページ、製造業の付加価値のみで見えていくと、日野市が突出して多い。全体の量からすると、日野市や羽村市が多いが、それを除くと昭島市は市の規模から見て良い線をいっている。そのような特徴があって、昭島市にはいくつかの優とされる企業もあることを理解していただきたい。

13ページ「撤退した主な工場一例」だが、これは昭島市ではなく、近隣の工場で閉鎖となったところを例示したものである。ここ10年間ぐらいでさまざまな企業が閉鎖され、マンションやスーパーが建設されているおり、社会情勢や企業の方向性として仕方がないことであるが、そこで懸念されるのは、これが昭島市でも起こらないとは限らないということである。「人口ビジョン」にもあったが、昭島市に通勤されてきている従業員数が意外と多い中で、大きめの企業が閉鎖されたときのインパクトは、税務上はもとより周辺に住まわれている従業員の数からしても相当なものがある。そう考えると、「人口ビジョン」の48ページにあった立川市の話はそのまま盛り込んでおいた方が良いと思っている。昭島市単独で人口維持をしていくのは困難かと思われるので、隣接するまちの良い部分は活用させていただく。昭島市に大きな商業施設がなくても、近くにあることで、境界を意識することなく自分のまちだと感じてもらえるだろう。それと、立川市は不動産関連が高いので昭島市に住もうと考える方々を、大きな気持ちで迎え入れるぐらいが良いと思う。

それと48ページ③の「産業の特性」の記述がひどく弱いので、昭島市の製造業は強いということをしかり出されてはどうか。企業はたまたま昭島市にあるだけかもしれないが、市と市民と企業とがつながりを持って、まちづくりをしていくことができれば、それは今後人口を維持・増加させるための礎となるだろう。ぜひそこは入れていただきたい。

提示した資料に戻るが、実は昭島市は製造業以外に大きな特徴が見られない。空家（20ページ）や治安（21ページ）の動向もそれほど悪くないし、外国人居住者（22ページ）も多くない。学力（27ページ）も多摩地域において中間程度で、むしろ特徴がないことが特徴のようだ。

28ページ「昭島市に住む人がどこへ通勤しているか」で、通勤先を見ると最も多いのは立川市である。一方、都心へ通勤する人は多くないため、そこを念頭においた対応も必要になるだろう。逆に29ページ「昭島市に勤める人がどこに住んでいるか」を見ると、その多くが近隣市から通われている。比較的西側からの通勤者が多いので、昭島市の商業施設や大手製造業に勤務されている人達は、その企業が昭島市に立地しているおかげで、周辺市に住まわれている。おそらく福生市や立川市の砂川町、八王子市の北側の方は、昭島市の製造業に勤めている方たちが意外と多くいて、事業所がなくなってしまうと良からぬことになるという相関にあると考えられる。

「人口ビジョン」の48ページに特徴めいたことを書くのであれば、立川市との連携、製造業を中心とした近隣との連携などを盛り込む必要があると思われる。

事務局・・・東中神駅周辺は大きな開発であるが、例えば西の玄関口である拝島駅も交通結節点の要所であり、人が多く集まるため、地域の人たちとしては当然商業圏という考えがある。東と西のバランスをとった全体的なまちづくりを展開していこうということが、一昨日開催された庁内検討委員会での私ども行政側の考えである。

また、昭島駅北口では昭和飛行機工業(株)が市と一体となって商業圏の開発中であり、今後、市と市内民間企業とが一体となったまちづくりを考えている。そこで、市としての全体の方向性、市としての戦略を立てる上では、立川市との連携はややばかした記述にさせていただきたいというのが庁内での意見である。

48ページの③については、確かにこれまで昭島市では製造業のことをあまりクローズアップしてこなかったが、今後は引き続き守っていく、あるいは更に誘致ということ視野に入れていきたい。それと同時に商業圏も大事であることから、③では「官民一体となった魅力あるまちづくり」が主眼となった記述となっている。そうしたことをイメージできるよう表記にしていきたいので、ここで「立川市」と具体的に名前を出すのは憚られる。市に人を呼び込むための1つとして昭和記念公園があるが、現在、多くの方が立川口から入られている。立川基地跡地が開発される際には、昭島口がより使いやすくなるよう大きくしたい。できれば昭和記念公園に少し張り出していただき、人の流れを呼び込むことで、東中神駅南口を中心とした商店街も、まだ活性化が見込めるだろう。いずれにしても②、③では広域的に人の流れをつくる取組みを主眼に掲げ、具体的な記述は避けたいというのが正直なところである。

委員長・・・どこに何を記述するべきかだろう。「人口ビジョン」はあくまでも人口のことが主体であるので、そのニュアンスを含めつつ具体的な話を出すとすれば「総合戦略」の基本目標に入れていった方がよい。従って、ここではあくまでも全体の大きな方向性を描くということに留めて良いと思う。ここまでの議論の流れからすると、皆さんの意識も具体的施策に向いていると思うので、まずはそちらの説明を聞いた上で議論を続けた方がよいだろう。

(2) 総合戦略の基本目標について

○事務局より資料4「総合戦略策定における基本目標について」の説明

委員長・・・1ページで国、都の目標を受けて昭島市の基本目標を示し、2ページでは将来の方向性が3つ打ち出されている。これらを具体的にしていく内容が3ページの記述であるという説明である。3ページが先ほど皆さんから意見のあった部分に相当し、基本目標として4つ掲げられている。ここの文言は国の基本目標と同様であるが、各目標の下に書いてある文章に「あきしまらしさ」や方向性を盛り込んでいきたい。まずは基本目標の1から4だが、そもそもこの基本目標で問題ないかということ、それと「あきしまらしさ」がある目標にするには、どう味付けをしたら良いかということをお皆さんから伺いたい。

勝見委員・・・基本目標2「昭島へ新しいひとの流れをつくる」だが、今年3月にJR青梅線のダイヤ改正があり、本数がかなり減少した。それによって、住みやすい、働きやすいという意味では、魅力に欠け、昭島に住むことをためらう人もいだろう。従って、今後昭島市としては、本数減少を上回るような魅力が必要となるし、それは基本目標1、3、4にも関わってくることである。

委員長・・・ネガティブな要素がある中で、それを超える魅力をつくって、いかにして発信していくかということである。皆さんからぜひアイデアをいただきたい。

斎藤委員・・・昭島市に住みたいと思える魅力の1つとしては、やはり水である。生活に欠かせない水に良いものがあるということをお、外に向かって積極的に発信すべきである。昭島市は地下水100%の水道水であることを多くの方が知らない。もっと自信を持って発信し、ここに盛り込んだ方がよい。それは必ず住みたい理由の1つになるだろう。

う。また、休日には親子で楽しめる昭和記念公園もあるのに、若い世代に住んでもらえるようなPRがこの中でなされていない。自然環境と住環境における良い点をアピールする文言を入れても良いのではないか。

委員長・・・そういったことである。全体に通じる「あきしまらしさ」が何なのかということと、一方で秀でた部分、製造業もその1つの特徴であるが、製造業がありながら、水と緑があるというのは、他にはない面白さである。それをあえて入れていくことは必要かもしれない。今のような意見を更にいただけると、事務局としても考える素材が増えて助かる。

元木委員・・・自然が豊かなことは、多摩地域であればどこも同じようなものであるが、昭島に居住する者から見て何があるかという、私も水が最大の魅力であると感じている。一方、昭島市にいて住みづらい、転出したいと思う要因となるものは通勤・通学のための交通の便であり、南北の移動が特に弱い。子育ての環境としては良いまちだが、電車、バス路線、駐輪場整備等も含めた交通の不便さを解消しないと、転出者は今後増えていくかもしれない。

中尾委員・・・昭島市の北側は近代的で、古くからの歴史があるのが南側である。南側は古くからの住人が多く、かなり高齢化していると思うが、駅までは歩いて30～40分もかかる。市がああたりをどう活用するのか気になる。全体を見ていても、南側のイメージが出てこない。市の魅力ということで、観光人口として呼び込むには南側の方が適していると思うが、新しく住む人を呼び込むには北側の方が適当であるため、市の施策としてはバランスが悪く悩みどころとなるだろう。

元木委員・・・自然や環境との共生という点で、緑豊かと言えば南側があたる。若い世代を呼び込むには不動産関係の安い南側に呼び込むことになるだろうが、定住してもらうには、交通の便も考えていかないといけないし、何らかの補助も必要だろう。

中尾委員・・・例えば南側で、下宿とか若い人が安く住めるような住環境を整える代わりに、地域コミュニティへの積極的参加を促すような方策を取り込むのも面白いかもしれない。

元木委員・・・仮の話だが、南側に近代的な設備の整った誰もが集いやすいキャンプ場をつくつたとする。立川市の商業施設からキャンプ場への道は広くて行き来しやすいので、立川市の商業施設で買ったものを持ってキャンプ場へ来ていただき、そこでお金を落としていただけるようにする。そこで要になるのは、駐車場の確保、駐輪場の拡大など、交通関連の整備である。

それと若い世代に対しても、手厚い助成や、話を聞く場所もあわせて必要で、それがひいては高齢者に対してもやさしいまちとなっていくと思われる。

委員長・・・事務局としては地域性も考慮した戦略を考えているのか。

事務局・・・昭島市では線路を挟み、北側では商業施設等が発展、南側では昔からの伝統が培われてきた地域というように、私としても二分された印象を持っている。それもある意味では昭島市の特色につながるのではないかと考えている。中央線や青梅線の沿線というと、駅周辺の人を呼び込める商業施設がそのまちのイメージにつながっている。武蔵野市では吉祥寺駅の周辺、立川市では立川駅北口・南口の商業施設、そうしたイメージと結びつきやすいという印象があるので、官民一体となって人を呼

び込むという意味では、イメージづくりも欠かせない1つかと思う。一方、伝統文化をどのようにコーディネートして発信していくかという点では、市の南側地区の方がそれに値する力強さを持っているだろう。

委員長・・・そうしたことを盛り込んで、全体像をつくるということである。

事務局・・・交通インフラの整備であるが、市としての戦略としては持ちにくい。それは民間企業が基本で、企業なりの営業戦略がある。私どもでも交通関連では、高齢者のためのコミュニティバスを走らせているが赤字運営であることもあり、市として交通インフラには手をつけにくい状況にある。

委員長・・・しかし、それは逆にマイナスの部分はどうプラスに展開できるかという発想にもつながるものである。例えば自転車を活用できるまちにするために駐輪場を整備する、あるいは歩くことを推奨するということもある。交通の便が悪くて通勤しづらいということであれば、地域で雇用を生み出せるよう製造業に努力していただき雇用拡大を促進する。それがかなえば都心まで出ていかななくてもここで暮らせるというように、マイナスからの転化ということで、多くのアイデアが生まれる。それを踏まえると、基本目標1から4はそれぞれが独立してあるものではなく、4つがつながって1つのストーリーになっていかないといけない。それぞれが矛盾しないよう、補完し合う基本目標であることが望ましい。

永澤委員・・・市の北側と南側はなぜそれほど違うのか。

事務局・・・戦前より昭和飛行機工業(株)が工場と飛行場を併設した広大な敷地を所有していたが、戦後、航空機事業が禁止され住宅公団(現UR都市機構)への土地提供や事業多角化によるレジャー施設等の運営によって駅の北側は発展してきた。住居にしても商業施設にしても民間の力で開発が進んだという構造である。一方で、河岸段丘の土地の中で、昭島は江戸時代に遡ると、多摩川沿いに農民が中心となって、南から北へ開拓して上がってきた。そうしてまちの集落が結成されてきたという歴史がある。更に、昭島が市制となった昭和29年は非常に財政が厳しかったため、以降、積極的に市が工場誘致を図ったことで工業団地が形成された。自ずとそこに勤務される人が周辺に住むという形ができている。そうした歴史的経緯があって北と南の違いがある。

委員長・・・そうした歴史的経緯があって昭島市があるのだから、従来からあるまちの良い部分を活かしつつ、新たな要素をどう取り入れていくかということである。これまでとはまったく違うものでも良いかもしれない。要は住んでみたいと思えるような要素を取り入れていくのだから、必要なのは、何か明確でわかりやすく、かつどんな生活でどんな仕事ができるのかといった魅力的な言葉である。一番の大元となるコンセプト、全体を統合するようなキャッチフレーズ、文言等のヒントをぜひ皆さんからいただきたい。

斎藤委員・・・私は昭島市の製造業を具体的に盛り込んだら良いのではないと思う。また、先ほどの「人口ビジョン」の43ページには「農業経営者の高齢化は他の産業分野より進行しており、事業を継承して人材の確保が必要」とある。それならば、新たな農業者の育成、水と緑、工業の強み、そうした衣食住環境の良さをうまく文言として整理したり、キャッチフレーズとして集約できたりすれば、それが効果的な市のPR

となり、住んでみたいと思える人も増えるのではないか。

副委員長・・・雇用については、特徴がないのが特徴だということではあるが、それでも製造業は昭島市の大きな特徴である。但し、最近では中国の株安等で激変して製造業も撤退を強いられるケースもあるため、今後の「総合戦略」ではその距離間を見極めた戦略が必要になってくる。現在の国内の製造業の雇用環境を考えると、ここに盛り込むか盛り込まないかで、基本目標1「安定した雇用の創出」の中身も変わってくるだろう。それと取組みの方向性としては、女性や高齢者の就労支援、働きやすさをどう整備していくかという具体的施策は、まだ素案ということで盛り込まれていないが、この点は市の特色づけにつながるかもしれない。

委員長・・・基本目標1「安定した雇道を創出する」であるが、これは昭島市でなくても同様の目標を立てられる。基本目標2「昭島へ新しい人の流れをつくる」も「昭島」を別の名前にすれば、どこでも使える目標になる。逆に言えば、「安定した雇道を創出する」で、雇用、業種、対象とする人たちをどうするかという面がもっと出てくると、具体性や「あきしまらしさ」につながるだろう。昭島市から製造業が撤退してしまったら、そこに付随するものも一緒に失われ大変な事態になるというのが長島委員提供の資料からもわかる。そこは我々がどうにかできるものではないが、製造業をキープするために、市として働きかけをすることや撤退・移転されないような方策を考えるといったこともある。一方、スピンアウトしてきた企業を応援したり、起業者を増やすということもまた考えられる。

長島委員・・・いくつかポイントをあげさせていただくと、まず、基本目標は「あきしまらしさ」につながらない文章になりがちとなるため、製造業の強みはぜひ出して良いと思う。都心近郊の他のまちとは違ったこのまちならではの製造業がある。例えば「都心近郊の研究開発型の～」と文言を工夫することで、他市との差が明確になる。

それと、大手企業と強い結びつきを持ちたいのであれば、実際に市役所の皆さんで会いに行くことが大切である。そして、市のお祭り等にも参加をいただいたり、企業の従業員の方々に子どもたちの教育の面で協力をいただくといった結びつきをつくることによって、市から撤退し難い状況がつけられると思う。

次に昭島の水であるが、熊本や軽井沢の方がイメージは強いが、それでも東京近郊にある中で、最良の水が飲めるというのはかなりの強みであるから、もっとその点をPRすると良い。

基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」は、先ほどの立川市の話と、近隣の日野市や羽村市と連携したらどうかということに関連すると思うが、ここにはそうした記述が一切見られない。昭島市は「地域と地域を連携」という面で、他のまちと比較して最も打ち出しやすいと思われる。社内で昭島市のことを議論した際も、「水」というキーワードはよく出るが、その次が出にくい。それならば、昭島市そのものは住まいと子育ての環境は最高で、緑も多く人もやさしく豊かなまちであり、雇用や商業施設の面では周辺の市と連携して安定しているといったイメージをつくるのが良いだろう。但し、交通の不便さも解消して、あらゆることを便利にしまうと、地価が上がって住みづらく、面白みに欠けるまちになってしまう。昭島市のやや地方のような雰囲気は

残したいという思い人も多いので、そうした良さは残していくことも大事である。それと多摩地区はどこのまちも似たようなものと言われがちで、特に昭島市はその印象が出やすい。だからこそ機能を立てた形をつくることが必要で、それができれば今後の予算も取りやすいのではないだろうか。

中尾委員・・・市内の多くの企業に参加していただき、研究や技術を発表できるようなイベントをしたり、企業見学会があると、地域や近隣の方との結びつきが生まれるのではないかと。それによって宿泊施設や飲食店といった方面も期待できる。

それと勤労商工市民センターでは、以前は仕事の求人がかなりあったのだが、最近では少なくなっているようだ。今の世の中の動きでは、働き方の多様性としてワーク・ライフ・バランスが打ち出されているが、昭島市ではNPOの団体も少なく、仕事を求めている女性や高齢者に開放されていないように思える。気軽に短時間で働ける場を提供することで労働者が増えて市も盛り上がるし、高齢者にとっては生きがいにつながるケースもあるだろう。そうした活動や労働の機会が提供できるようになると良い。

長島委員・・・ここに「協働」といったことは盛り込めるのか。NPO団体がなぜ昭島市には少ないのかと考えると、昔からの歴史があって、相互に助け合いがあるためNPO団体の必要性が低いのかもかもしれない。

斎藤委員・・・私が取材活動していた7年ほど前のことで昭島市の特徴の1つだと思えたことは、「ウィズユース」という活動が活発だったことである。これは他の市でいう青少年地区対策委員会であり、小学校地区ごとに「ウィズユース」があって、季節ごとに子どもたちのためのイベントを開催するなどしていた。私は当時、昭島市では地域で子どもを育てていくという環境がかなりできているという印象を持った。現在「ウィズユース」の活動状況は確認していないが、そうした組織があったことで、NPOが少ないというのも1つあるかもしれない。

事務局・・・そうした組織はどこの自治体にもあるもので、おっしゃる通り学校区ごとの青少年地区対策委員会であり、現在もある。

斎藤委員・・・私が周辺の市を取材した中では、昭島市の活動が最も活発だった。そうした活動があるからなのか、昭島市だけが子どもによる子どものためのイベントとして「青少年フェスティバル」が実施されており、これもかなり特徴的なものだと思っている。ここまでそれほど子育て、教育の話が出てこなかったが、どこかに入れても良いキーワードかと思う。

勝見委員・・・そういうものがあれば、基本目標3で積極的に打ち出していった方が良い。

委員長・・・今言われたようなことは、地域の人たちにとっては普通のことであり、それが昭島市の特徴であることに実は気づいていない。そもそもコミュニティがあって、本当に子育てしやすい環境があって住むとしたら、南側の緑とコミュニティの要素と、北側の製造業と都市的な空間の要素、両方あるのが昭島市の面白いところであり、魅力であるから、そこはぜひ入れていきたい。

昭島市では、ものづくりや製造業とつなげるようなイベントは実施されているのか。

産業活性課長・・・観光まちづくり協会が「あきしま町あるき」というツアーの企画の中で、数社の企業に協力をいただき、見学をさせてもらっている。今後も増やしていきたいと考え

ている。

委員長・・・市の1つの基幹産業として製造業があるだけではなく、観光資源にもなるだろうし、また、子どもの教育の面でも活躍いただけるかもしれない。それによって製造業とまちのつながりをより深くすることで、早々とは撤退し難い状況をつくってしまうというのは1つ案としてあるだろう。そうした要素があると、この4つの基本目標が有機的につながっていくように思える。

事務局・・・例えば日本電子(株)さんも相当な技術を持っている企業で、国内でも有数の顕微鏡を学校に寄贈していただいたこともあり、今学校で実際に授業の中で使用している。まちのPRという点では、そうした魅力も伝えていきたい。

委員長・・・そのためには、昭島市の魅力・強みとなる素材の見せ方をうまく工夫して、戦略に盛り込んでいくと良いかもしれない。せっかくそれだけの魅力が備わっているにも関わらず、きちんと内外に伝わっていないので、基本目標に入れていくと良い。また、基本目標3に関わる結婚・出産・子育ての面でもかなり魅力があるわけだから、そこはもう少し記述したいところである。今の中身ではよくありがちな文言となっている。

事務局・・・各自治体では「子ども・子育て支援事業計画」を策定しており、昭島市でも策定している。子どもを出産し、安心して育てられる環境づくりのため、就学前から就学後に至る一体的な計画となっている。こうしたものも前面に打ち出し、昭島の特徴を踏まえながら、基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望者をかなえる」のところに記述していきたい。

委員長・・・各目標に対して、多くの意見が出されたが、本日の議論だけでは皆さんの合意も得難いと思う。本日の意見を踏まえて修正をいただき、次回に出されてくるであろう具体的施策とあわせて見ていくと、更に具体的なイメージがつかめるだろう。次回は具体的施策の方から基本目標を改めて検討しながら議論していきたい。

事務局・・・基本目標1から4は、ありがちでどこの市でも変わらないといった意見をいただいた。いくつかキーワード的な部分もあげられたので、事務局としては国に準拠した基本目標の文言は連携していくという意味で使っていきたいが、その説明文章には、昭島の強みや本日出された意見を踏まえて修正をしたい。

委員長・・・各基本目標の大枠は、概ね問題ないと思うが、皆さんはどうか。(一特に意見なし) 細かな文言はともかく、4つの基本目標に対しては皆さんも合意されていると思う。それを踏まえて、次回は具体的施策とともに、具体的に特徴を出した記述について議論したい。

5. その他

(1) ワークショップの開催について

(2) アンケート調査について

(3) 次回会議開催日程について

事務局・・・3点まとめて報告する。まず1点め、ワークショップについてだが、市では現在、庁内とこの委員会とで「人口ビジョン」、「総合戦略」の議論を深めているところであり、広く市民の方々の意見等も伺いたいと考えている。開催日程は11月7日(土)

もしくは8日（日）の午後3時間程度と予定している。テーマ的には「住み続けたまち」、「住んでみたいまち」として、昭島の魅力をどう内外へPRしていったら良いかということや、4つの基本目標の視点に沿ったものを考えている。

2点め、先月8月に「結婚・出産・子育てに関する意識調査」を実施した。対象は1,000人で、3割弱の回答が得られたところである。この結果は次回お示しできればと考えている。アンケート調査の結果も踏まえ、「総合戦略」を検討していきたい。

3点め、以降の会議日程であるが、第3回は10月2日（金）18時から、第4回は10月30日（金）18時からを予定している。但し第4回は、第3回会議の進捗状況やワークショップの開催等も踏まえ、変更の予定もあることをご了承いただきたい。

宗川委員・・・ワークショップで議論されるテーマは、検討委員会の議論と順序が前後することはないか。

事務局・・・とりあえず4つの基本目標は基本的には変更しないが、ワークショップでは具体的施策の中身の部分に関して、魅力あるまちづくりへの意見を伺っていきたい。第3回、第4回の会議でコンプリートするものではなく、ワークショップの中から、新たな魅力発信や意見が出てきたときは、それも踏まえて更に「総合戦略」の素案を固めていく予定である。

5. 閉会

委員長・・・それではこれにて「第2回総合戦略策定検討委員会」を終了する。